

講演会プログラム

13:00 開会の辞

13:10 招待講演

『安全の新しいとらえ方～レジリエンスエンジニアリングの視点から』

東北大学 名誉教授
北村 正晴 氏

高い安全性を求める声は社会で広く聞かれており、対応してヒューマンエラーや組織の安全文化に注目した安全技法が関心を集めている。一方で、これら既存の安全技法を補完するための新しい方法論として「レジリエンスエンジニアリング」が構築されつつある。「理想的安全状態」を目指す従来の考え方に対して、「常に変化する環境や目的相克の中で能動的にリスクに対処し安全を維持し続ける」というダイナミックな安全の考え方を提起するという見方がその根幹である。本講演ではこの新しい方法論について解説する。

14:00 『電子航法研究所の最近の活動』

電子航法研究所
山本 憲夫 研究企画統括

電子航法研究所における最近の研究長期ビジョンの見直し、アジア地区を中心とした国際連携の促進及び本講演に含まれる以外の主な研究成果などについて紹介する。

14:20 『マルチラレーション航空機監視システムの高度化』

電子航法研究所 通信・航法・監視領域
角張 泰之 研究員

当研究所が研究・開発を進めている、マルチパス信号環境に耐性のある空港面用マルチラレーション(OCTPASS)と、空港周辺空域を高精度・高頻度に監視できる広域マルチラレーション(WAM)について、その開発状況を紹介する。

15:00 『羽田空港の空港面交通流の特徴について』

電子航法研究所 航空交通管理領域
山田 泉 主任研究員

日本一の繁忙空港である羽田空港における空港面の効率的な運用は、より良い航空機運航を目指すために重要な課題である。この発表では、羽田空港の空港面監視データの分析を元に、離陸待ちの渋滞など空港面交通流の課題について分析した結果を報告し、空港面の効率的な運用のための対応策について考察を述べる。

15:40 休憩

16:00 『航空気象情報の見える化について』

電子航法研究所 航空交通管理領域
新井 直樹 主幹研究員

航空機の効率的な運航や航空機事故の防止のためには、気象情報の活用は欠かすことができない。しかし多くの気象情報は、含まれる情報が多様でかつ平面的な資料が多いため、それらの情報だけに基づいて、様々な分野の利用者が大気の立体的な構造を短時間で理解することは必ずしも容易ではない。そのような背景から、気象情報と航空機の情報を3次元で可視化する航空気象情報可視化ツールAWvisの開発を開始した。

本稿では、開発中のAWvisの概要と可視化事例について紹介する。

16:40 『携帯電話の電波が航空機に与える影響の評価』

電子航法研究所 機上等技術領域
米本 成人 主幹研究員

航空機には通信や航法等の多くの無線機器が搭載されているため、外来の電磁波による電磁干渉が懸念されている。他方で、携帯電話等の乗客が持ち込む電波を発する電子機器の航空機内で使用したいという需要も高まっている。本講演では安全性を担保しながら電子機器の使用を許容するための検証手法について解説する。また、携帯電話の電波が我が国で使用されている代表的な航空機に対して与える影響を、実機試験で評価した結果について紹介する。

17:20 閉会の辞

※すべて質疑応答を含んだ時間です。

※内容及び題目については、現時点での予定であり、予告無く変更する場合がございます。予めご了承ください。